

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2019年8月)

・勉学・研究の進捗状況

8月は投稿論文の申請と原稿の送付をしました。結果と査読者からのコメントは現在待っているところである。そして、もう一本の投稿論文の執筆するにあたって、分析に用いる理論を検討している。言語使用においては、言葉の意味を発信するとともに、話し手の意図や、その言葉から見られるものなどのような間接的指標されるものも含まれている。このことを説明するにあたって、Silverstein(1979)による「Language Ideology」と「Indexicality」の概念を応用された研究がある。その中で日本語の敬語についてのものは延与(2015)がある。延与(2015)では、「Language Ideology」を「言語形式やその使用に関して、言語使用者自身によって説明される考えの総本」と日本語で解釈されている。そして、延与(2015)が説明しているように、「Indexicality」あるいは「指標性」に関しては、言語形式や言語使用が何を指標することが示されている。この概念を日本語の敬語と関連させる際、敬語としての性質を考えるべきである。蒲谷・金・吉川・高木・宇都宮(2010)によれば、敬語には言葉としての意味と、敬語的性質があると指摘されている。具体例を挙げると、例えば「召し上がる」には「食べる」という言葉としての意味もあり、動作の主体を高くするという敬語的性質もあると説明できる。この敬語の敬語的性質を説明するにあたって、敬語の敬語的性質とSilverstein(1979)による「指標性」の概念には共通している部分があるため、「指標性」の概念を敬語の研究に応用する可能性があると考えられる。今後、「指標性」についてより勉強し、特に「指標性」を用いて分析した研究を集めて参考文献として扱いたいと思う。

・生活について

お盆休みの後半に伊勢神宮に行ってきた。神社めぐりが趣味の一つのため、日本で最強の神社としての伊勢神宮には以前から行ってみたかった。伊勢神宮の旅に特に印象が残ったのは、伊勢神宮におみくじがないということである。そして、参拝後、参道やおかげ横町にある店に寄って、グルメも楽しめた。伊勢うどんや、赤福氷などの伊勢市の名物をたくさん食べてきた。非常に魅力的な町であり、もう一度行きたいと思う。



文献

延与由美子(2015)「サービス業における敬語の指標性と合理化ディスコース：新人研修担当者へのインタビューデータより」Studies in language sciences : journal of the Japanese Society for Language Sciences 14, 126-141.
蒲谷宏・金東奎・吉川香緒子・高木美嘉・宇都宮陽子 (2010)『敬語コミュニケーション』朝倉書店。